

2008年 損保平和交流集会アピール（案）

どんな戦争も核兵器にも正義はない 私たちにできることを積み重ねていこう

原爆が投下されてから63年、21世紀の今も、26,000発の核兵器が世界の平和と安全と、私たち人類の生存を脅かしています。被爆者が、「人類と核兵器は共存できない」と警告し続けているように、核兵器の使用は一瞬にして無数の命を奪い、世代を超え人びとを苦しめ、文明をも破壊してしまいます。

そして、どんな戦争にも平和はともなわず、どんな戦争にも正義はありません。私たちは、21世紀が、核兵器のない新しい平和な時代となり、この国が「二度と戦争をしない国」「戦争に巻き込まれない国」であり続けることを願っています。

それは、圧倒的多数の政府が求め、全世界の人々が求めていることであり、核兵器廃絶の声と戦争NOの声は、アメリカをはじめとする核保有国の、「核兵器によって安全や平和を守る」という政策の欺瞞をつき、核保有国自らが核兵器廃絶に行動すべきだとの大きな声となって高まってきています。

こうした中、このヒロシマの地で開催されている「原水爆禁止2008年世界大会」では、2010年にひかえる「NPT（核不拡散条約）再検討会議」が、核兵器廃絶への展望を切りひらく重要な場として、世界をつなぐ国際的共同行動のとりくみが提案されています。

ひるがえって、私たちの働く損保産業は、国民の生活と財産を守り、経済社会の基盤を支えるという社会的役割を持った産業です。先の戦前・戦中においては、戦争に加担させられ、戦争保険をつくり、経営が破綻状態に陥った経験から、戦後は「損保産業は平和産業」という合言葉の下で再建され、発展してきた歴史をもっています。

そして、私たちの全損保は、日本の労働組合の中で唯一、平和公園内に祈念碑をもつ労働組合です。全損保は、碑文に刻まれた平和への願いとその行動を、過去から現在・未来へと受け継いでいく使命があると自覚し、損保産業の健全な発展を求めるとりくみはもとより、平和と民主主義を守るとりくみを地道にすすめてきた労働組合です。

いま、日本では、憲法9条改憲をターゲットに、「戦争ができる国」づくりへの危険な動きが進められています。しかし、言うまでもなく、平和でなければ、社会も経済も文化もなにより一つとしてなりたちません。平和は尊く、思想・信条の違いを超え、すべての人々の生存と生活の根幹をなすものです。そして、平和にとっての最大の脅威は、戦争に他なりません。

ここに集った私たちは、平和産業である損保に働く一人ひとりです。また、人類史上唯一の核戦争を体験し「憲法9条」と非核三原則をもつ国の一人ひとりです。被爆63年目のこの交流集会を契機に、平和を願うすべての人々と連帯し、「戦争をしない国」であり続けることと「核兵器のない平和で公正な世界」めざして、できることを一つずつ積み重ねて頑張りあおうではありませんか。そのことを呼びかけ、交流集会アピールとします。

2008年8月5日

原水爆禁止2008年世界大会連帯
被爆63年 損保平和交流集会